

別表 1 相互応援に向けた東北地方支部長及び県支部長の態勢

1. 地震

態勢種別	態勢確保の時期	東北地方支部長及び県支部長の態勢の内容
注意態勢	・各支部内で震度 5 弱の地震が発生	・情報連絡により水道の被害状況や応援要請の有無等について確認する。 ・状況に応じて上位の配備に移行する。
警戒態勢	・各支部内で震度 5 強の地震が発生	・情報連絡により水道の被害状況や応援要請の有無等について確認する。 ・応援要請等に対応する準備を進める。 ・状況に応じて上位の配備に移行する。
非常態勢	・各支部内で震度 6 弱以上の地震が発生 ・各支部内で地震による甚大な水道の被害の発生を把握	・情報連絡により水道の被害状況や応援要請の有無等について確認する。 ・応援要請等迅速に対応できる態勢を確保する。

2. その他災害

態勢種別	態勢確保の時期	東北地方支部長及び県支部長の態勢の内容
注意態勢	・各支部内で大雨等※の特別警報が発表 ・地方支部長の要請	・被害発生時に迅速な情報連絡を行える態勢を確保する。 ・状況に応じて上位の配備に移行する。
警戒態勢	・特別警報が発表された大雨等※が各支部内で現に発生 ・地方支部長の要請	・会員事業体における被害状況の把握が可能になったと思われる時点で、情報連絡により水道の被害状況や応援要請の有無等について確認する。 ・応援要請等に対応する準備を進める。 ・状況に応じて上位の配備に移行する。
非常態勢	・各支部内で災害（地震を除く）による甚大な水道の被害の発生を把握	・情報連絡により水道の被害状況や応援要請の有無等について確認する。 ・応援要請等迅速に対応できる態勢を確保する。

※大雨等：大雨，暴風，暴風雪，大雪，津波，火山噴火

別表 2 地方支部長被災時の職務代行・補助者

以下の優先順位により、職務代行又は補助の対応が可能な者から候補者を選定する。	
優先順位	職務代行・補助者
第 1 位	青森県支部長
第 2 位	秋田県支部長
第 3 位	岩手県支部長
第 4 位	福島県支部長
第 5 位	山形県支部長
第 6 位	宮城県支部長

別表 3 応急給水資機材一覧

分 類	応急給水資機材	備 考
車両	給水車 トラック 広報車	<ul style="list-style-type: none"> 給水車は加圧式が望ましい。上水道用可搬式電動ポンプ等の搭載も有効。 車両にはカーナビゲーションシステムの設置が有効。
給水容器	仮設水槽 給水タンク（トラック架設用） ポリタンク 給水袋	<ul style="list-style-type: none"> ポリタンクは10ℓ以下が望ましい。 給水袋は6ℓ以下が望ましい。
給水機材	エンジンポンプ 水中ポンプ 消火栓ホース 燃料タンク 発電機 仮設給水栓セット 飲料水袋詰機	
保安設備	照明機器 カラーコーン コーンバー	
その他	残留塩素濃度測定器（試薬） 拡声器（乾電池） 携帯電話（充電器） 懐中電灯（乾電池） 携帯ラジオ（乾電池）	

別表 4 応急復旧資機材一覧

分 類	資機材名称	分 類	資機材名称
車両等	運搬車（クレーン付） 作業車 工作車（ダブルキャブ他） 緊急車 ライトバン	掘削埋戻し 工具	黒板（撮影表示板） 小型掘削機 スコップ ハンドブレーカー 転圧機
保安設備	工事看板 バリケード カラーコーン コーンバー ハロゲンランプ 簡易回転灯 交通誘導等		保安設備 投光器 つるはし コンプレッサ 土留め材料 土のう袋 コンクリートカッター
配水調整用 資材	制水弁用開栓器（バルブキー） 蓋カギ スタンドパイプ 水質検査器 残留塩素測定器	排水工具	水中ポンプ 発電機 布ホース
修理資材	給・配水資材、管材 埋め戻し土 仮復旧合材	漏水調査器 具	相関式漏水発見装置 電子式漏水発見器 埋設管探知機 音聴棒 距離計 水圧ゲージ
接合工具	ビニル管接合工具一式 ポリエチレン管接合工具一式 鉛管接合工具一式 継手接合器材 （トルレンチ、スパナ、金尺他）	その他	配管図 携帯電話 携帯無線 懐中電灯（乾電池） トランシーバー カメラ フィルム ハンドマイク ハンマー 工具類（一式） 酸欠防止用具
切管工具	リードカッター エンジンカッター ローリングカッター 電気ドリル 穿孔器 コードリール		

別表5 装備品一覧

1. 応援水道事業体職員であることを証明するもの

品 名	数 量	摘 要
身分証明書	隊員個々に準備	
運転免許証	隊員個々に準備	
健康保険証（写）	隊員個々に準備	
腕章（事業体名称入り）	隊員の人員分	

2. 派遣時の服装及び携行するもの

品 名	数 量	摘 要
作業着（上下）+着替え	隊員個々に準備	※季節により夏用、冬用を持参 ※貸与を受けていない隊員には庶務担当が手配する。
雨具、防寒着	隊員個々に準備	
安全靴、ゴム長靴	隊員個々に準備	
ヘルメット、帽子	隊員個々に準備	
手袋（軍手、皮手袋）	隊員個々に準備	
スニーカー、上履き等（移動時等）	隊員個々に準備	
下着、靴下（派遣日数分+α）	隊員個々に準備	※季節を考慮して持参

3. 生活、衛生面で必要なもの

品 名	数 量	摘 要
発電機（小型）	1 台/1 隊当り	※宿泊施設が確保できなかった場合又は水道施設内に宿泊する場合に必要なと考えられる物品を参考列記 ※派遣先に持参する物品を選択
発電機燃料用携行缶	1 個/1 隊当り	
投光器	2 基/1 隊当り	
ドラムコード（50m）	2 個/1 隊当り	
寝具類（寝袋、毛布、枕等）	隊員数分	
テント（隊員宿泊用）		※テント（2～3 人/1 張（感染症対策を要する場合は1 人/1 張）を目安）
簡易シャワー		※受援事業体に確認し要・不要を判断
洗面具（タオル、歯ブラシ等）	隊員個々に準備	※替えや予備を持参すると便利
懐中電灯（電池式、充電式）	3 本×1 隊	
乾電池（単一、単三等）	6 本/1 隊×日数	※応援隊の入れ替え時に補給

4. 調理・給食関係で必要なもの

品 名	数 量	摘 要
携帯用ガスコンロ	2 個/1 隊当り	
ガスボンベ（詰め替え用）	6 本/1 隊当り	
調理器具類（鍋、やかん等）	2 個/1 隊当り	
食器類 A（茶碗類）	×隊員数	
食器類 B（使い捨て容器等）	隊員数×日数×3	
割り箸、使い捨てスプーン等	隊員数×日数×3	
包丁	1 本×1 隊	
まな板	1 枚×1 隊	
缶切り		
電気ポット	1 個×1 隊	

5. 食料等

品 名	数 量	摘 要
飲料水（ペットボトル 1.5ℓ）	隊員数×2本×日数	※受援事業体等に確認し、現地の店、コンビニ等の営業状況を確認後、持参物を決定 ※住民に支障のない範囲で現地調達 ※カップ麺、レトルト、缶詰類等の痛まない食品類は次隊に引継ぎ
カップ麺	隊員数×3個×日数	
レトルト食品（白飯、惣菜等）	隊員数×3個×日数	
缶詰類（飯類、惣菜副食類等）	隊員数×3個×日数	
その他食料品	必要に応じて	

6. 救急医療薬品等

品 名	数 量	摘 要
救急箱一式	数種類×必要数	風邪、胃腸薬、外傷薬、目薬
包帯	必要数	
マスク	必要数	粉じん対策、感染症予防
栄養剤（ビタミン剤）	必要数	
フェイスシールド	隊員数	感染症予防
消毒アルコール、除菌スプレー	必要数	感染症予防
使い捨てカイロ		
虫よけスプレー	5本/1隊当り	

7. 車両関係

品 名	数 量	摘 要
タイヤチェーン等	車両台数分	冬期派遣時
E T Cカード	車両台数分	
派遣車両のスペアキー	必要数	受援事業体に預ける（駐車場所の移動に使用）
災害派遣等従事車両証明書	車両台数分	
緊急車両標章（事業体名称入り） （横断幕、マグネット、旗等）	派遣車両数分	輸送用車両、給水隊用、復旧隊用

8. 通信機器・情報機器類

品 名	数 量	摘 要
ノートPC		
携帯電話・スマートフォン		
衛星電話		
デジタルカメラ		記録用
プリンタ		インクカートリッジ含む
携帯ラジオ		
カードリーダー（SDカード等）		PCの仕様
電源延長コード		
OAタップ		

9. その他

品 名	数 量	摘 要
派遣先の地図		
方位磁石		衛星電話の受信方角確認
充電器		カメラ、携帯、電池用
ティッシュペーパー		
文房具一式		ペン、マーカー、付箋、はさみ、ホチキス等

別表 6 応急給水隊の編成

編成	<p>○応急給水隊の基本単位を応急給水班とする。</p> <p>○応急給水班 1 班（給水車 1 台）あたり、2 名の給水要員による体制を標準とする。</p> <p>○トラック等による運搬給水の場合、必要に応じて運転手 1 名を増員する。</p> <p>○3 班以上の応急給水班からなる応急給水隊を編成する場合には、被災会員と調整のうえ、指揮監督するための総括責任者を含めて派遣することが望ましい。</p>
派遣期間	○応援活動の継続性、職員の健康等を考慮して、1 班あたりの派遣期間は、概ね実働 1 週間とする。

別表 7 応急復旧隊の編成

編成	<p>○応急復旧隊の基本単位を応急復旧班とする。</p> <p>○応急復旧班は、総括班、漏水調査班、修理班により構成されることを標準とする。</p> <p>【総括班】</p> <p>総括責任者 1 名</p> <p>連 絡 員 1 名</p> <p>記 録 者 1 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総括責任者は被災会員の責任者と連絡調整し、各班の指揮監督を行う。 ・連絡員は、漏水調査班、修理班との連絡調整を行う。 ・記録者は、作業内容等の応援活動を記録するとともに、連絡員を補助する。 <p>【漏水調査班】 1 班あたり</p> <p>漏水調査班（1 班）の編成は、以下を標準とするが、被害状況や応援の規模に応じて適宜増員する必要がある。</p> <p>責 任 者 1 名</p> <p>作 業 員 3 名</p> <p>【修理班】 1 班あたり</p> <p>修理班（1 班）の編成は、配水管と給水管の両方を修理できる編成とし、以下を標準とするが、被害状況や応援の規模に応じて適宜増員する必要がある。</p> <p>責 任 者 1 名</p> <p>作 業 員 5 名（施工業者）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業員は世話役、配管工、運転手、特殊作業員、普通作業員で構成する。 ・3 班以上の応援隊を派遣する場合は、被災事業体の責任者と連絡調整し、指揮監督するための、総括責任者を含め派遣する。
派遣期間	○応援活動の継続性、職員の健康等を考慮し、1 班あたりの派遣期間は、概ね実働 1 週間とする。

別表 8 費用負担の区分

先遣調査隊	地方支部が負担すべき費用	先遣調査隊が負担すべき費用
応援活動	被災会員が負担すべき費用	応援会員が負担すべき費用
人件費等	超過勤務手当 深夜勤務手当 特殊勤務手当 管理職員特別勤務手当 旅費（日当含む）	給料 地域手当等基本的な手当
材料費	継ぎ手、直管、異形管、 弁栓類、弁きょう、鉄蓋類、 給水袋等 等	
請負工事代金	工事請負費（材料費、労務費、 機械器具損料、滞在費、諸経費等）	
車両、機材等の 費用	燃料費（ガソリン、軽油） 修理費 賃借料 輸送料（機材等の輸送に係る有料道路 料金、フェリー料金等）	損料
滞在費用	食料費（弁当、現地での食事等） 宿泊費（仮設ハウス設置費用、ホテル等 宿泊費）	携行する食料費 携行する寝袋、テント等 被服（防寒服・割当のない職員分・ク リーニング代） 生活用品、その他福利厚生費
その他事務費等	工事確認用写真代 作業用消耗品 通信費（電話料金、FAX、インターネット等） トランシーバー 消火器 地図 コピー代	記録・報告・広報用写真代 その他事務用品
補償関係費用	応援職員の疾病に対する応急的な治療 費 応援作業中の事故等における第三者に 対する損害賠償金	応援職員の災害補償費（出張中の公務 災害） 往復途上の事故等における第三者に対 する損害賠償金